

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0854	
施設名	そらのいえ保育園	
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1	
法人名	社会福祉法人わかば	
活動期間	令和 6 年 4 月 から 令和 7 年 3 月	
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。
	公表したホームページ等のURL	https://www.soranoie.jp/rinen.html

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	地球の成り立ち（引力→磁石の性質）					
実施回数・期間 （注2）	大きなテーマに沿って一年を通じて4月から32回。その中でも引力（磁石の性質）に着目して活動。					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	人	人	人	20人
活動内容 （注3）	<p>・世界の大陸・引力（磁石と砂鉄）・浮力・表面張力・液体の変化と性質・宇宙と星の誕生・生命の歴史（生き物の誕生から人間まで）を実験出来るものは実験して体感する。生命の歴史は年表や実物を交えて話をした。その中から、特に引力に注目し、磁石の実験や砂鉄取りなどを行った。</p>					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		<p>※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 年長児20名を10名ずつのグループに分けて活動していった。少人数にすることで、お互いの意見を言い合うことができ、それをくみ取りながら実験に取り組むことができた。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		<p>※記録をどのように行ったか その都度、保育者がメモを取る事と、写真で活動を記録した。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		<p>※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 実験の様子を全体で提示した後に、1人でも行えるように準備し、時間の制限を設けずに取り組めるようにした。砂鉄取りで公園へ行った際には時間を設け公園の中で自由に磁石が付くところなどを探してみた。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		<p>※振り返りの実施方法 全体で行った提示の後に、個人の時間を持ち、以前やったことの振り返りができるようにした。</p>				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		<p>※教諭や保護者等への共有方法 職員会議での報告。ホームページへの掲載。</p>				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	<p>※継続的な実施のための工夫 活動中の子ども達の様子や言葉から、このような実験で自分でやってみる事にとっても興味をもっていると分かった。自由にする事で自分たちの思いを表現しながら実験を繰り返している様子から、時間を決めずに取り組める環境を整えた。</p>					

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0854
施設名	そらのいえ保育園
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1
法人名	社会福祉法人わかば

1. 活動のテーマ

<テーマ>

地球の成り立ち

地球ってどうやってできたの？何からできているの？

その中から引力（磁石の性質）に特化してさらに探究してみる。

<テーマの設定理由>

恐竜や星などに日頃から子ども達は興味をもっている。そのもっと昔には何があったのか、地球にはどのような性質があるかについて、身近な物での実験などを通して知ること、子ども達の探究心、好奇心を掻き立てられると考えた。

2. 活動スケジュール

- ・ 4/18,25（過去未来） ・ 5/2,9（大陸） ・ 5/16,23（自然物） ・ 5/30,6/6（引力）
- ・ 6/13,20（浮力） ・ 6/27,7/4（比重） ・ 9/12,9/19（融解、気化）
- ・ 10/3,10（色々な液体） ・ 10/24,31（宇宙と星） ・ 11/28,12/5（砂鉄）
- ・ 11/14,11/21（生命の歴史①） ・ 12/5,12/12（生命の歴史②）
- ・ 1/16,1/23（西暦） ・ 1/30,2/6（生命の歴史③）
- ・ 2/13,2/20（生命の歴史④） ・ 2/27,3/6（生命の歴史⑤）
- ・ 3/13（まとめ）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

磁石～つくもの、つかないもの～：磁石、身の回りの名称が分る小物、人数分+2

砂鉄取り：磁石・ビニール袋・クリアトレー

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

年間スケジュールに基づき、多くの実験の中から磁石に興味を示した子ども達の様子から、磁石に特化してさらに探究活動をすることにした。①公園へ砂鉄を取りに行き、自由時間を設けて公園内でも磁石を使ってみる。②取ってきた砂鉄をトレーに乗せ下から磁石で動かしてみる。③室内の物を磁石に付くか付かないかを探究してみる。

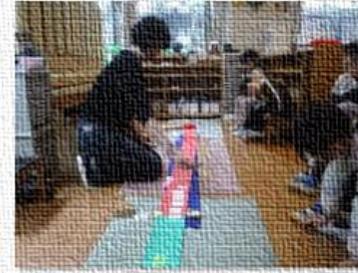
<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

別紙参照 資料1

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達の探究心に大人もおおいに触発された。磁石の性質をグループで提示した時も自分たちで考えて「銀色だからつくんじゃない？」等との発言があり、子どもの視点に気が付いた。磁石を持って砂鉄を取りに行った時、保育者の声掛けは無かったが磁石を滑り台等に付けてみて「わあ！くっついたよ！ほら！」と発見したのは子ども自身だった。個々の活動に移ると、磁石につけた砂鉄の変化や付けてみた物にも磁力が移ってまた付くということにも気が付いて、自由にできる長い時間があると、子ども達はいくらでも探究し、様々な発見をしていくことに気づかされた。もし「10分で交代ね」等と時間制限をしていたら、その先の発見は無かったのではないか。どの子もやりたがり、並んで待っている時間が長かったが、諦めることもなく、前の子の活動を見て、一緒に考えたりしながら自分の番を待っていて、探究活動への熱意も感じる事ができた。





磁石の性質 色々な物につく つかない

◎つくもの つかないものグループ提示

準備:20 くらいの子供の身近な物を用意した。(ペットボトル、クリップ、1 円玉、10 円玉、消しゴム、瓶と蓋、安全ピン、ダブルクリップ、リング、髪ゴム、金色のボタン、白いペーパーファスナー、釘、ハサミ、等)

グループごとに磁石の性質の提示を行った時(一人一つ選んでつくつかないか想像してつけて見る)

- ・初めは黙ってじっと見ていたが「わかった！銀色とか光っているのはつくんだよ」と話始める。
- ・金色のボタンは「つく！」とほとんどの子が答えたが実際つかなかったので「え～??」と疑問に思ったようだった。
- ・「プラスチックはつかない」といい、ペットボトルやタッパーなど付かなかったので喜んでいて。
- ・白いペーパーファスナーを見せると「付かない」という子が多かったが実際ついたので、これも疑問に思ったようだった。

保育者は答えやヒントを言わず、子ども達の想像の中で考えて行く様子を見守った。

◎室内の物をつけてみる(つけてはいけない物を先に伝えておく)

1 人一つの磁石を持ち、自由に室内の物を色々つけてみる

どの子も提示を見ていた時とまた違った喜びの表情をしていた。

- ・「先生見て！」「ほらついた！」等と言いながら棚の下にある耐震具にまで目を向けていた。
- 一つの物でも、つく部分とつかない部分がある事に気がついて定規やハサミなど楽しんでいて。
- ・小さな砂鉄の粒を机に置き、磁石を近づけると「掃除機みたいにくっついてくるー！！」
- ・ゆらゆらと磁石を揺らしながら近づけて「ダンスおどっているみたい！」「揺らしてもついてくるよ」
- ・N 極と N 極、S 極 S 極をつけようとして、つかない状況に「わあ、ここに何かある！ここに力があるよ！」「なんで？なんで？」「赤と青はつくのに赤と赤は逃げちゃうよー」「電車の発車みたい」

保育者は「ほんとだね」「どうしてかな」と共感はあるが何故なのかはつきりさせず、考えていけるように声掛けをした。

◎グループ活動を終えて、同じ内容を個人で出来るように室内に設定

つく物とつかない物をそれぞれのトレーに入れた後、自由に付けたり取ったりしている中で。

・「瓶のガラスはつかないけど、蓋はつくよ」

・クリップなど軽いものをつけようとして「あ！ほら見て磁石を近づけただけでついてきたよ」瓶の蓋もやってみて「これはくっついて来ないね」「重いからじゃない？」「他の物ではあまりにも重すぎたよ」「落ちちゃうよ」「軽いのはついてくるんだ」

・消しゴムが付かないことを何度もやってみて、「この中に磁石を埋め込んだら、つくんじゃない？」と言う子がいた。

保育者が「ゴムはつかないけど中に磁石が入っていたらつくのかな？」とだけ問いかけると、「つくよ、だって中に磁石があれば磁石と磁石だもん」「だけど周りがゴムだから付かないかもしれないよ」「大きな磁石を入れたらいいかもしれないよ」「そうだね、小さいとつかないかも」等と話し合っていた。実際に実験できなかったのが残念だが、面白い発想だった。

・磁石につけた安全ピンに更にクリップがついてきたので「ほら先生何個もついたよ」「揺らしても落ちないよ」「マジシャンだ」と言いながら、リングとクリップと安全ピン、くぎとクリップと安全ピン、ダブルクリップと安全ピンなど色々つけ始める。

保育者が「どうしてだろうね？」何で安全ピンは磁石じゃないのにその先にクリップが付くんだろうね」等とその先の「なんで？」に繋がるように声掛けしてみる。

「磁石の力が移ったんじゃない？」

保育者が「じゃあこうやって安全ピンを磁石から外しても…」と外してみるとそのまま安全ピンにクリップが付いていたのを見て「すごい！ ついている！ 先生マジシャン？」「先生はマジシャンなのかな？ 自分でもやってみて。どうしてだろうね？」「わああああ！ ついてきたよ。僕もできたよ。」考えている様子で、しばらくしてから

「先生、磁石の力をここ(安全ピン)に保存して、それでくっつくって事じゃない？」

「そうかも知れないね。じゃあ、磁石無しでも安全ピンはクリップがつくのかな？」

やってみるとつかないのを見て

「あれ？ つかないね。もう力は無くなってしまったのかも」「磁石が付いていると力がもらえるのかな」

保育者はせっかく気が付いた不思議に寄り添うように、答えは出さないが面白さをプラスした声掛けを心がけた。

磁石の性質 砂鉄

◎公園へ砂鉄取りに行く(磁石・ビニール袋)

磁石を地面につけてついてきた砂だけを手で取って袋に入れることを伝え、自由に取り。

- ・「先生ついてきたよ」「こっちの方はどうかな?」「もっと沢山取れるかも」等と言いながら取る。
- ・帰る集合を掛けると、砂を取るのをやめて、集まってくる途中で滑り台やブランコの策などにつけてみている。つくのを見て驚いたような表情をして「ほら、みて!」「これにもつくよ!」「逆さにもつくよ」「鉄棒につけたら砂鉄が取れたよ」などと笑い合いながら色々な所につけていた。

◎砂鉄遊び(磁石・取ってきた砂鉄・透明のトレー)

トレーに取ってきた砂鉄を入れ、下から磁石を当てて砂鉄を動かしてみる。

- ・「わあ!動いたよ」「みてみて」「ついてくるよ」「魚みたい」「すごい」「やばい」「スーパーサイヤ人みたい」等と嬉しそうに声をあげながら楽しんでいた。
- ・砂鉄を取ってきた袋に戻してから、袋の上からも磁石をつけてみて「わあ、ほら袋も浮いたよ」「袋の中でもついてくるよ」等としばらく楽しんでいた。

◎砂鉄遊び グループ活動を終えて自由に個人で出来るように準備

砂鉄が沢山あり「こんなにいっぱいあるの?」と嬉しそうに始める子がほとんど。

- ・初めはグループでやったように、トレーの下から磁石を当てて動かしている。そのうちに上から直接磁石をつけ始める。磁石に沢山ついた砂鉄を見て「ぼさぼさすぎ~」「ハリネズミみたい」「ヤンキーの髪の毛みたい」「スカートみたい」「ウニみたい」「ハリセンボンみたい」「髪の毛みたい」。
- ・砂鉄に磁石を近づけてひゅっとなついてくる様子を見て「銃のようについてくるよー」「あれ?青い方に沢山つくよ」「なんでだろう?」
- ・トレーの下から砂鉄を当てて砂鉄がトレーの上で立ち上がってくるので「ほら、見て!立ったよ!」「なんで立つの?」「すごい」。
- ・トレーの下から動かして、トレーの角まで砂が付いてくるのを見て「やばい、こんなことになってる」「こっちにもついてくる」。

資料1 活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

・砂鉄の付いた磁石を振って「とれないよ」「落ちないね」「振っても砂が落ちないよ」。

自分たちで楽しく自由に、時間があることで様々な発見をしていた。

砂鉄も、磁石の実験も1人で取り組んで発見していく子もいれば、周りの子が近寄ってきて一緒に「こうしてみたら?」「ここもっているよ」などと協力しながら見つけていく子もいた。

何かを見つけようとしているわけではない活動の中にも、発見があり一度発見するともっと何か見つけられるかも、という様子が伺えた。

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0854		
施設名	そらのいえ保育園		
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1		
法人名	社会福祉法人わかば		
活動期間	令和	6	年 6 月 から 令和 7 年 3 月
活動内容の公表	<input checked="" type="checkbox"/>	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://www.soranoie.jp/rinen.html

2. 活動報告（注1）

番号	2					
テーマ	葉のかたち					
実施回数・期間 (注2)	令和6年6月より令和7年3月まで					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
		人	人	17人	14人	20人
活動内容 (注3)	①葉で遊ぼう ・同じ形の葉を探す。色々な形の葉を探す。色々な色の葉を探す。・落ち葉を集める。落ち葉を踏んで遊ぶ。②葉の観察 ・葉の形の違い・・・葉の葉脈というモンテッソーリの教具を使用し、葉の形の名称を知る。③葉の部分					
活動における チェックリスト	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。				
		※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか グループに分けて活動を行い、自分の意見や考えをグループのなかで発表し、最終的には全員の前で発表することにした。発表する順番などを相談し得意な子どもと苦手な子どもで補い合う様子が見られた。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。				
		※記録をどのように行ったか 戸外での活動がメインであったためあまり写真が撮れなかったが、子ども達の言葉をメモで記録していった。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。				
		※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 一人ひとりの意見に耳を傾けながらその子なりの活動の展開が出来るように援助した。葉の形をテーマに進めていったが、形の変化に興味を持ち、ものの形について活動を進める子や、色に興味を持ち活動を進めて行く子がいるなどそれぞれの活動へと変化していった。保育者は子どもが興味を持ち進めようとする活動の手助けができるよう見守るとともに、興味を持っていない様子の子と一緒には他の友だちの活動の様子を見たり、話を聞くなどしながら進めていった。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。				
		※振り返りの実施方法 子ども達と活動について振り返り、それぞれの活動の楽しかったところなどを聞く時間を持った。全員ではなくそばにいた子どもと小さいグループで何度か行い、友だちの話を聞いて興味を持った子どもは他の活動に取り組むなど刺激になっていたようである。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。				
		※教諭や保護者等への共有方法 職員会議での報告。ホームページへの掲載。				
<input checked="" type="checkbox"/>	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。					
	※継続的な実施のための工夫 友だちの活動を見たり、話を聞くなどしながら活動を進めた。お散歩に出かける際には、木や葉っぱの名前を言いながら、また子ども達からの質問などに答えたりするなど活動だけではなく、普段の生活の中に取り入れながら活動の展開を楽しんでいった。					

(注1) 活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

(注2) 「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

(注3) 「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0854
施設名	そらのいえ保育園
施設所在地	東京都大田区大森中1-14-1
法人名	社会福祉法人わかば

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「葉のかたち」植物によってそれぞれ葉の形や、花、種などに違いがある。同じ植物でも違うのはなぜなのか？子どもの素朴な疑問から植物の葉について調べることにした。①植物の葉はそれぞれ大きさや形が違う。②葉を見ただけでどんな植物かわかることがある。という2点を中心に環境の中の植物の観察や葉の形の呼び方を知ることでもっと植物に興味を持ってもらいたいと探究活動を行う事にした。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

保育園の玄関のプランターに年長児が野菜の苗を植え、毎日水やりをしながら育てている。育てた野菜は給食のメニューに加えてお味噌汁としてみんなで頂いたり、8月の終わりに夏野菜焼きそば(食育活動)で使用している。またお泊り保育での夕食(カレー作り)に使用するなどし、育てた野菜を食べることで野菜が苦手な子どもも自分が育てた野菜!と口にすることが出来るようになっていく様子をみんなで毎日観察しながら大切に育てている。ある日、水やりをしている時に、なすの葉が1枚ずつかたちや大きさが違う事に気が付いた。「どうして形が違うの?」という子どもの声から、なぜ同じ植物なのに大きさや形がちがうのか?植物の葉について調べてみることにした。

2. 活動スケジュール

グループ活動…葉の観察→身の回りの葉の観察→戸外(公園)での観察
個別活動…色について(色板)→葉の形(葉の筆筒)→小さい本づくり
グループ活動は9月、10月に行い、その後10月から3月まで個別活動、小さいグループ活動へと展開していった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

モンテッソーリ教具(葉の筆筒、色板)はいつでも子どもが使えるように準備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

①ナスの葉の観察…プランターに植えて育てていたナスの葉の大きさや形が違う事に気づき、観察する。②いろいろな形の葉っぱを探す…公園へ行きいろいろな形の葉っぱを探す。生えている葉っぱは観察し、落ちている葉っぱは拾って持ち帰ることにし探していった。集めた葉っぱを友達同士見せ合う。③葉のタンスを使って葉の形の名称を知る。④色板を使用し、色の濃淡を知る。⑤葉っぱの形について知っている事、新しく知ったことなど話す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

①プランターのナスの葉を観察しているときに、形の違いに驚いている様子の子や触って「ちくちくしている。」という声でみんなが葉っぱを触り、ちくちくしている葉っぱを触った。「となりのキュウリはもっとちくちくしている。」と気づき周りのプランターの野菜を触って比べる子もいた。プランターだけでなくおしろいばな、桜など周りの植物にも気づき触る様子があった。「もっとほかの葉っぱも触ってみたい。」という子どもの声上がり、後日公園へいく事にした。普段グループの中では自分から発言することが少ない子も葉っぱを触りながら「大きさが違うね。」など声を上げていた。②ふるさと浜辺公園(砂浜や大型遊具のある広い公園)で葉っぱ探しを行った。途中遊具で遊びながら自由に活動していたが、子どもたちから「生きている葉っぱはとったらだめだよ。」「おちているはっぱだけはいいよ。」というルールができ、生きている→ちぎってしまうと死んでしまう(枯れてしまう。)という意識があることに感心した。自由に散策しながら、また遊びながら解放的な気持ちで葉っぱ探しを行うことでそれぞれが自由に様々な葉を集めてきていた。押し花にするつもりが「持って帰りたい。」という意見が多くこの日集めた葉っぱは持ち帰ることになった。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回ナスの葉の形の違いを見つけて子どものつぶやきから始まった活動だったが、色の変化や、成長過程を観察できるともっと面白かったのではないかと感じた。春から四季を通しての変化を観察することでもっと違いがわかりやすかったのではないかと、また1年間テーマを持って活動することで子どもたちの活動に取り組む変化なども見られたのではないかと思った。モンテッソーリの文化の活動の中で自分たちの住んでいる国、日本について活動する子もおり、日本地図を製作している。活動の展開として時間があれば地域によって生育する植物の違いや、実際に生葉を使って押し花などを作っても面白いのではないかと思う。公園にいろいろな形の葉を探しにいった際には、公園までの道のりで街路樹や民家の植栽に子どもが気づき、葉の形だけでなく木や植物の名前を尋ねてくることがあった。名前の分からない植物もありすぐに調べることができるように事前に準備することも必要だと感じた。子どもたちの発見や、気づきはひとりひとり違い、興味や関心もそれぞれ違う。グループ活動での発見や気づきを個別の活動として展開し、深めていき、まとまりができてきたところでグループでの分かち合いなど友達の活動を見ることはとても良い刺激になったと思う。来年度も引き続きこのテーマで活動していきたい。また、あまり取り組みに積極的でない子どもへの無理のないアプローチも考えていきたい。

